

# フクギによる<sup>ほうご</sup>抱護の手引き

—まもるために5つの大事なこと—

2023年3月版

沖縄県今帰仁村教育委員会

今 泊 区



# 目 次

1. 抱護 <sup>ほうご</sup> の機能と役割	1
2. 今泊のフクギの価値	6
3. フクギによる抱護 <sup>ほうご</sup> の維持管理—『5つの大事なこと』—	9
4. 日常生活におけるフクギに関する Q&A	13
5. フクギの落ち葉や剪定枝葉 <sup>せんていえだは</sup> の処理について	17
6. 今泊では抱護 <sup>ほうご</sup> の保全のための取り組みを行っています	18
7. 抱護 <sup>ほうご</sup> に関する相談窓口	19

# 1. 抱護<sup>ほうご</sup>の機能と役割

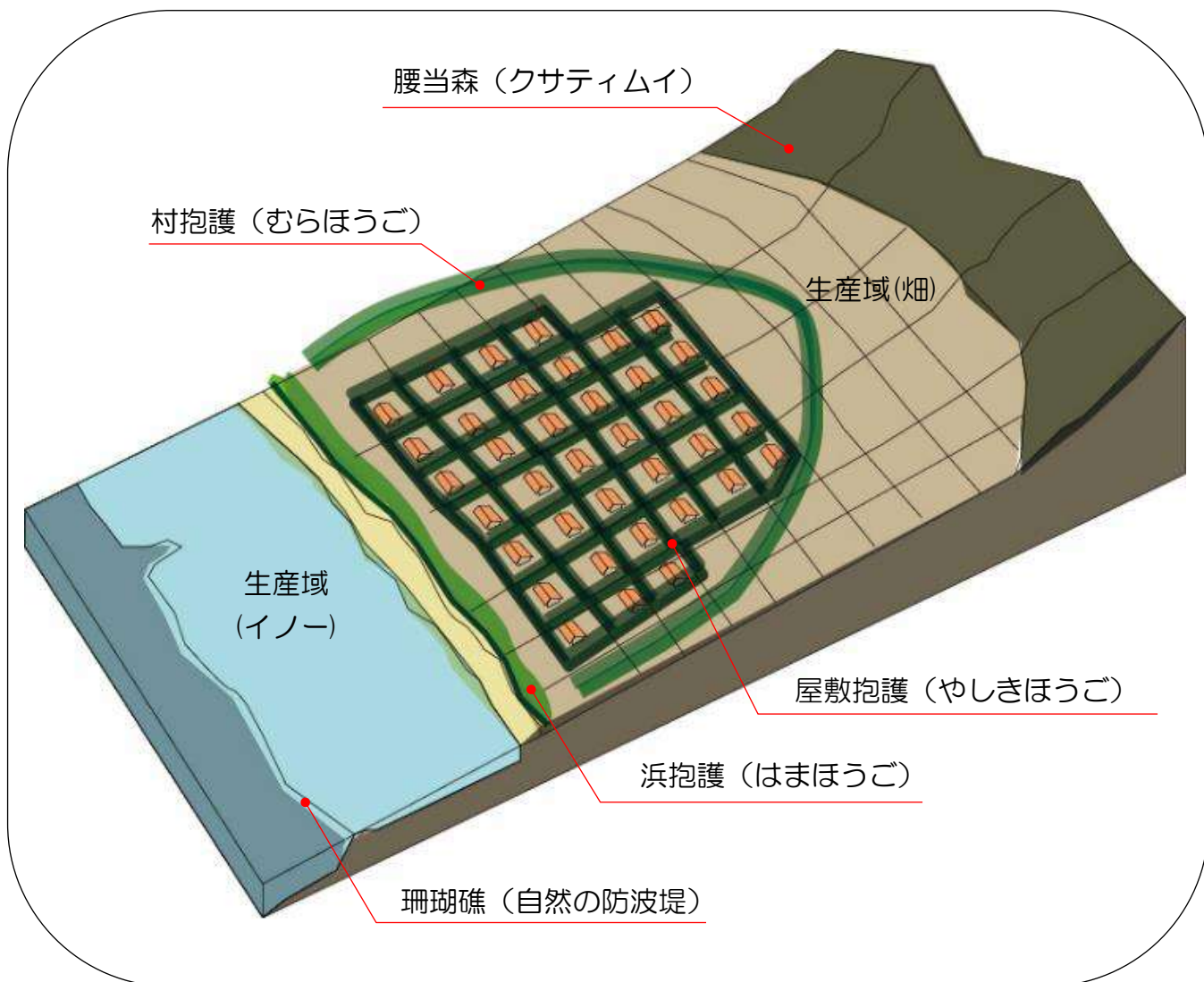
## ○琉球王府時代に形成され今に受け継がれてきた抱護（ほうご）

台風など自然災害の多い沖縄では、1730年代後半以降、首里王府<sup>しゅりおうふ</sup>による集落の整備と同時に抱護（ほうご）が形成されました。

抱護<sup>ほうご</sup>とは地形と樹林帯<sup>じゅりんたい</sup>で構成されるもので、その目的は冬の季節風や台風、潮害<sup>ちやうがい</sup>、火災などから、農地や家屋を守ることです。

抱護<sup>ほうご</sup>には「屋敷抱護<sup>やしきほうご</sup>」・「浜抱護<sup>はまほうご</sup>」・「村抱護<sup>むらほうご</sup>」などがあり、海岸から集落、或いは複数の集落にまたがって、その配置場所によってさまざまな呼び方が存在します。

抱護<sup>ほうご</sup>の模式図



## ○今泊集落の抱護

今泊の抱護は、「浜抱護」「村抱護」「屋敷抱護（フクギ屋敷林）」で構成されます。

「浜抱護」はシルバマの南側のアダンなどの樹林帯を指します。

「村抱護」は西側や東側の高まった地形と、そこに植栽されたフクギなどの樹木を指します。

「屋敷抱護」はそれぞれの屋敷を取り囲むフクギの屋敷林です。

抱護はそれぞれ単独では成り立たず、全体で集落を守っています。そのため、地域を守る共有の財産として認識され、大事に維持・管理されてきました。

今泊の抱護の配置（村抱護・浜抱護と屋敷を囲むフクギ屋敷林）



## ○抱護の機能

抱護には、次のような防災などの機能が考えられます。

自然環境の厳しい今泊集落では、建物が強固になった現在でもこれらの機能を発揮しています。

### ①防風機能

北からの季節風や台風からの強風を防ぎます。

### ②防潮機能

潮風を遮ることで、建物や農作物の潮害を防ぎます。

### ③高潮からの防備

フクギは高潮からの減災機能があるといわれています。

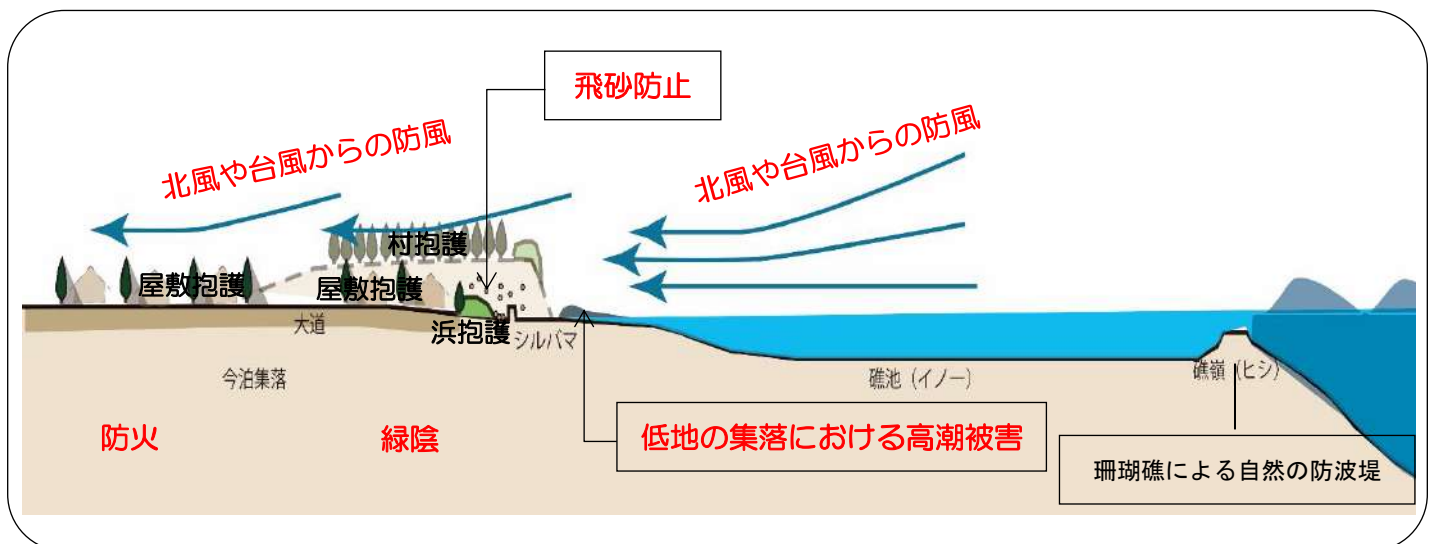
### ④防火機能

フクギの葉は厚いため燃えにくく、防火機能を持っています。

### ⑤飛砂防止

海に近い場所では、海風に乗って飛んでくる砂を捕らえ、住宅や農地に飛散するのを防ぎます。

今泊の抱護の機能模式図



## ○新たに見直されるフクギ屋敷林の機能

かつての集落は、右に見られるように  
 瓦葺や茅葺きの屋根がほとんどで、木造  
 建築でした。そのためフクギ屋敷林などの  
 抱護は台風の被害から生活を守るために  
 必要不可欠な存在でした。



コンクリート造の住宅が多くを占める現  
 在においても、フクギ屋敷林の持つ機能が  
 見直されてきています。

### ・沖縄で伝統的に行われてきた居住環境を快適にする工夫

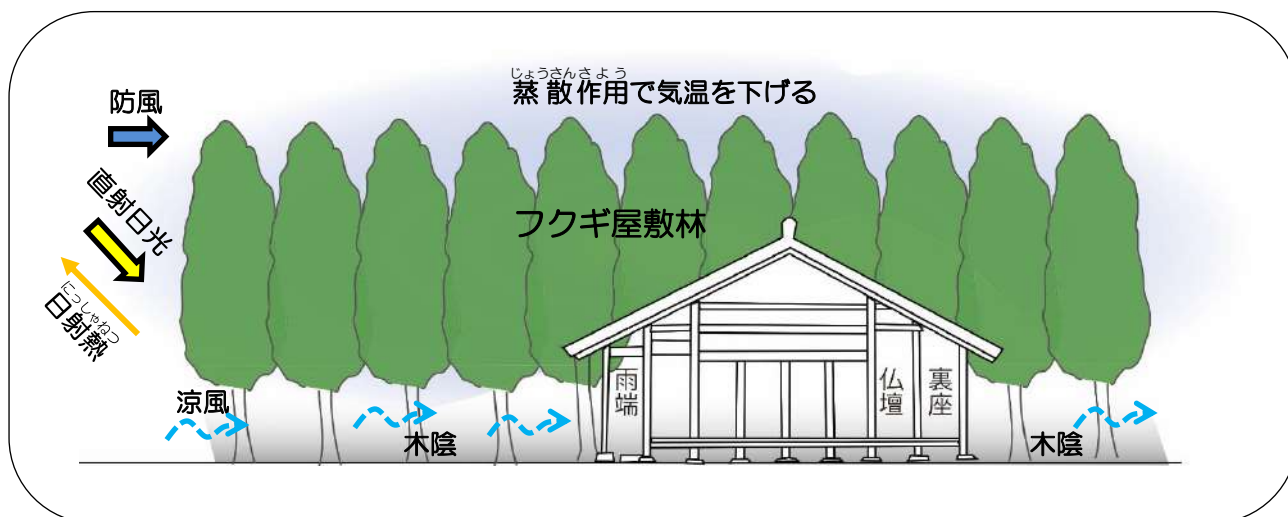
強い日射、年間を通して吹く強い風、高い湿度、台風による暴風という気象条件  
 の沖縄では、伝統的に住宅の内外において直射日光を遮蔽し、日射熱を外に逃がす  
 など、住宅内外の環境を調整することが行われてきました。現在の建築物の多く  
 が、その構造物と設備だけで環境をつくることは対照的です。

### ・フクギ屋敷林は居住環境を整える機能を持っています。

フクギ屋敷林は防災機能だけでなく、木陰をつくり地面の温度を下げるとともに、  
 蒸散作用によって水蒸気を発散し、周辺の気温を低減させます。快適な居住環境  
 の形成や周辺の環境改善に貢献するのです。

自然環境問題が切実になっている現代において、今泊の抱護に見られるような、  
 地域として快適な居住環境を作るという考え方は再評価されています。

居住環境を整えるフクギ屋敷林の模式図



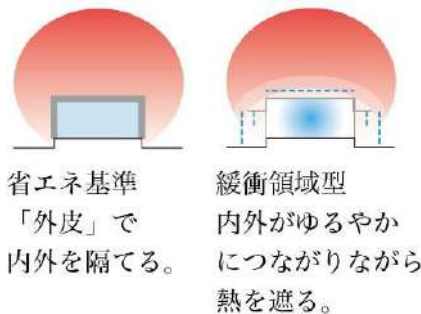
## コラム：気候風土適応住宅について

「建築物省エネ法」は、建築物の省エネルギー化を進めるための法律で、2023年現在、住宅の新築にあたって建築士は「省エネ基準」（省エネルギーのための建物の性能の基準）に適合しているか、建築主に説明しなければなりません。さらに2025年度には全築住宅が「省エネ基準」に適合することが義務化される予定になっています。

国の「省エネ基準」は、建物の断熱性能を高めて空調機器（沖縄では冷房装置）を有効に使うものを評価しますが、建物の外側に影をつくったり、通風を大事にしたりする方法は評価していません。但し、国は「気候風土適応住宅の認定基準」を地方の行政庁が定めれば、「省エネ基準」と同等の条件を満たすものとして認めることとしています。

そこで、沖縄県は2020年4月に「沖縄県における気候風土適応住宅認定基準」を定めました。

「沖縄県における気候風土適応住宅認定基準」は、「省エネ基準」が建物の内外を隔てる「外皮」の断熱性を中心としているのに対して、建物の外部と内部の関係がゆるやかにつながる中で、「緩衝領域」によって日射の熱をコントロールする考え方に立っています。



緩衝領域型の住まいは、建物の外で熱を遮る（緑化など）、建物の外側で熱を遮る（深い庇、花ブロックなどの日除け、屋上の遮熱ブロックなど）、建物の内部の作りかたを工夫する（間取りの工夫で緩衝領域をつくるなど）方法の組み合わせです。

中でも屋敷林は建物の周囲に影をつくり、植物自身の蒸散作用によって気温を下げることで、敷地内の建物だけでなく、周囲の建物まで影響を与え、地域の広がりの中で環境をつくる方法として、気候風土適応住宅の認定基準の中で重要な方法の一つとなっています。



## 2. 今泊のフクギの価値

フクギは抱護<sup>ほうご</sup>を形成する主な樹木の一つです。今泊のフクギには、小さな苗木<sup>なえぎ</sup>から琉球王府時代に植栽された老木<sup>ろうぼく</sup>まで様々な樹齡<sup>じゅれい</sup>のフクギが見られます。

このことから、長い年月をかけて先祖代々守り続けてきたことがわかります。

琉球王府時代から集落の変化を見守り続けてきたフクギは生きた文化遺産<sup>ぶんか遺産</sup>といっても過言<sup>かごん</sup>ではありません。

沖縄県内のさまざまな集落において守り続けてきたフクギも、沖縄戦や戦後の社会<sup>しゃかい</sup>情勢<sup>じょうせい</sup>の変化、建物の近代化によって失われてきました。県内で今泊のようにフクギがほぼ完全な形で残されている集落は少なく、学術<sup>がくじゆつじょう</sup>上極めて貴重なものです。



フクギの巨木

### ○今泊でも減少しつつあるフクギ

今泊においても、建物の構造の変化や開発などによりフクギが減少しつつあります。



フクギで張り巡らされた戦前の今泊集落

(出典：1944年米軍撮影空中写真 沖縄県公文書館所蔵)



クルマ社会へ変化してきた 1977 年の今泊集落  
(出典：国土地理院)



2020 年の今泊集落  
(出典：Google earth)

## ○皆でフクギを大事にしましょう

フクギなどの抱護は建築構造が<sup>けんちくこうぞう</sup>進歩した現在においても、防風や<sup>ぼうふう</sup>防潮、<sup>ぼうちよう</sup>防火、<sup>ぼうか</sup>飛砂<sup>ひさ</sup>防止などの多くの<sup>ぼうし</sup>防災機能を果たし、また<sup>ぼうさいきのう</sup>居住環境を快適にするなど<sup>きょじゆうかんきよう</sup>新たな機能が見直されてきています。

今後もフクギの価値を皆で再認識し、大事にしていきたいですね。

## ○新たにフクギを管理される方へ

今泊のフクギは、<sup>りゅうきゆうおうふじだい</sup>琉球王府時代から<sup>せんぞだいたい</sup>先祖代々受け継がれ、現在の景観がつくられてきました。未来にこの景観を<sup>つな</sup>繋いでいくため、フクギを大事にし、引き継いでいきましょう。



昭和 30 年代の大道（プミチ）の様子

### 3. フクギによる<sup>ほうご いじかんり</sup>抱護の維持管理—『5つの大事なこと』—

我々の生活環境を守るフクギの持っている機能を維持しつつ、管理していくことが大事です。樹木にはそれぞれ成長の特徴があり、フクギも<sup>じゅれい</sup>樹齢によって、<sup>せんてい</sup>剪定に対する<sup>たいせい</sup>耐性など特徴があります。

まず初めに、フクギのことを知りましょう。

#### ○フクギの<sup>とくちょう</sup>特徴

フクギは上にまっすぐ伸びる<sup>じゅけい</sup>樹形を持ち、葉が<sup>があつみつ</sup>分厚く密に茂る特徴から、<sup>やしきほうご</sup>屋敷抱護に用いられてきました。<sup>げんさんち</sup>原産地はフィリピンと言われており、今泊でも<sup>やしきほうご</sup>屋敷抱護や<sup>むらほうご</sup>村抱護として積極的に<sup>ていちゃく</sup>植栽され定着しました。



今泊のフクギ屋敷林



フクギの苗





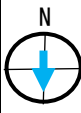


フクギの葉と実



フクギの花

# ○フクギの<sup>こよみ</sup>暦

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
風況	← 冬の季節風 (ニシハジ) →		← ニングウチ カジマーイ →			← カーチバー →			← ミーニシ →			← →
風向												
枝の伸長	休止	伸長		休止		伸長		休止				
着葉・落葉	着葉		着葉 (新緑)		着葉							
開花・結実					花期			果実期				
剪定	可能	最適期	不適			軽剪定は可能	不適			可能	最適期	可能
移植		移植適期										
種まき										種まき適期		

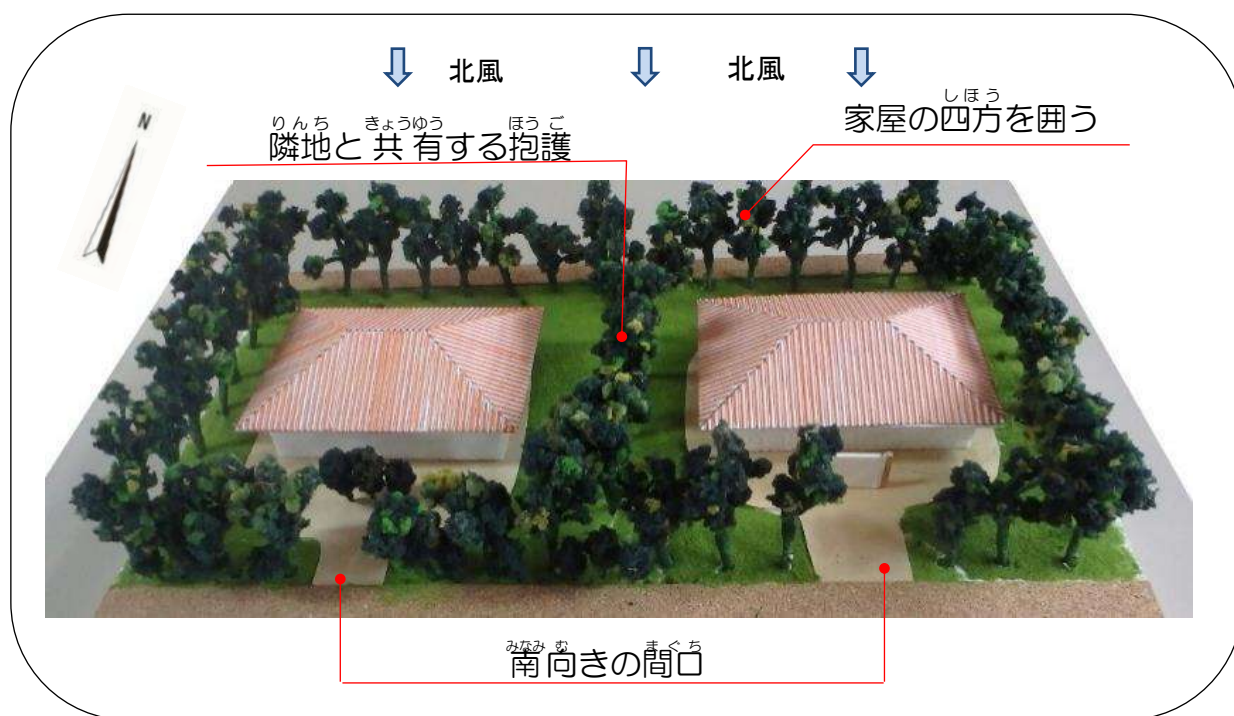
フクギによる抱護<sup>ほうご</sup>を維持するためには、次に示す『5つの大事なこと』があります。日常の中に、ぜひ取り入れてみてはどうでしょうか。

## 大事なこと その1

### フクギで屋敷<sup>かこ</sup>を囲う

今泊では季節風や台風から生活を守る目的で、フクギ屋敷林が屋敷の間口<sup>まぐち</sup>以外の四辺<sup>しへん</sup>を密に囲うというのが基本です。

また、複数の屋敷(2軒～)がユニットになって、その周囲をまとめて囲うパターンもあります。



フクギ屋敷林の基本モデル

## 大事なこと その2

### 北側<sup>きたがわ</sup>や海沿い<sup>うみぞ</sup>のフクギは大切に

北側<sup>きたがわ</sup>や海沿い<sup>うみぞ</sup>の木は強風<sup>きょうふう</sup>や潮風<sup>しおかぜ</sup>を防ぐため、特に大切にします。

## 大事なこと その3

### 芯しんや太ふとい枝えだは切らない

フクギの芯しんや太ふとい枝えだを切らず、樹形じゆけいを保ちます。  
剪定せんていした場合には、殺菌剤さつきんざいを塗布とふすることで、切り口きりぐちからの病気を防ぐことができます。



切り口に  
殺菌剤の塗布

## 大事なこと その4

### 老木ろうぼくには特に優しく

特に老木ろうぼくのフクギは、枯れ枝などを除いて極力きょくりょく枝を切らない様になります。

## 大事なこと その5

### ツルざつぼくや雑木は除去する

オオイタビなどのフクギに絡みつからいたつる性植物は樹勢じゆせいを下げるので除去します。アカギやアコウなどの、フクギの樹勢じゆせいを下げる雑木ざつぼくも除去します。



幹に絡みつくオオイタビ



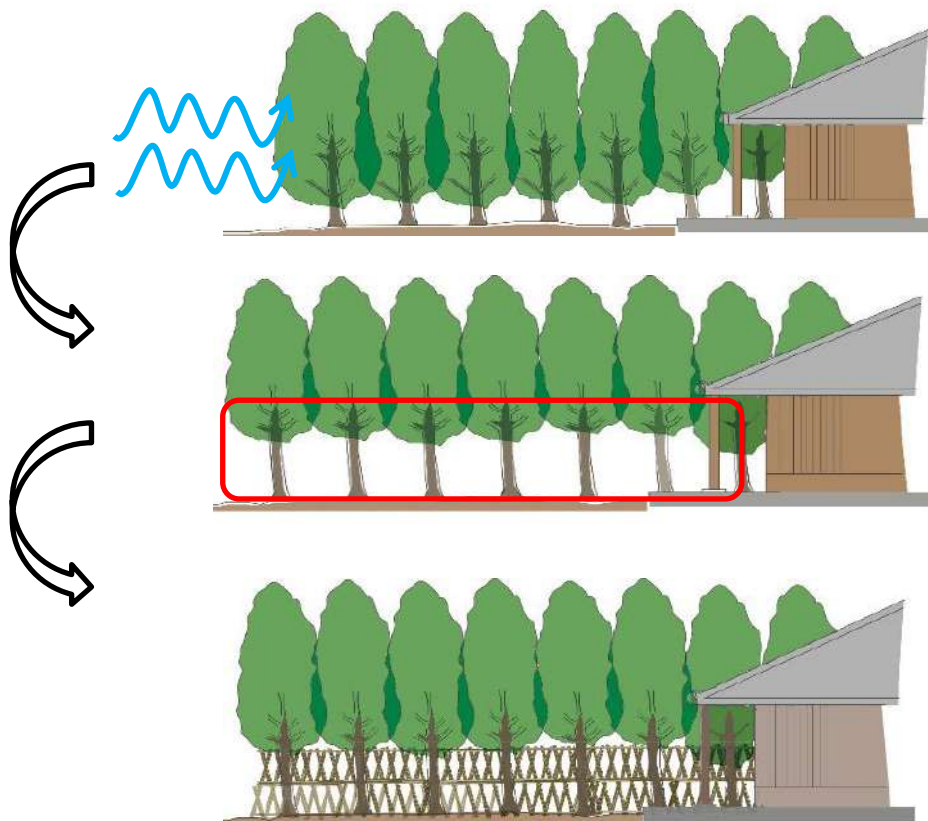
幹に絡みつくポトス

## 4. 日常生活におけるフクギに関する Q&A

生活様式せいかつようしきが変わった現代においては、フクギとの関わり方も変化しています。  
生活している中で、よくある困りごとについて対処法たいしよほうを Q&A で示しました。  
このような困りごとがあれば参考にしてください。

### Q1. フクギが茂って風通しが悪くなり困っています。

A1. 防風ぼうふうに効果の薄い下層枝かそうえだ（地上から1～2 m程に生えている枝）を剪定せんていし風通しをよくすることができます。強剪定きょうせんていしたり、芯しんを切らないようにしましょう。



下枝を剪定した後に、チニブを取り入れれば涼風りよつぷいっを取り入れながら敷地境界をしっかりと明示することができます。

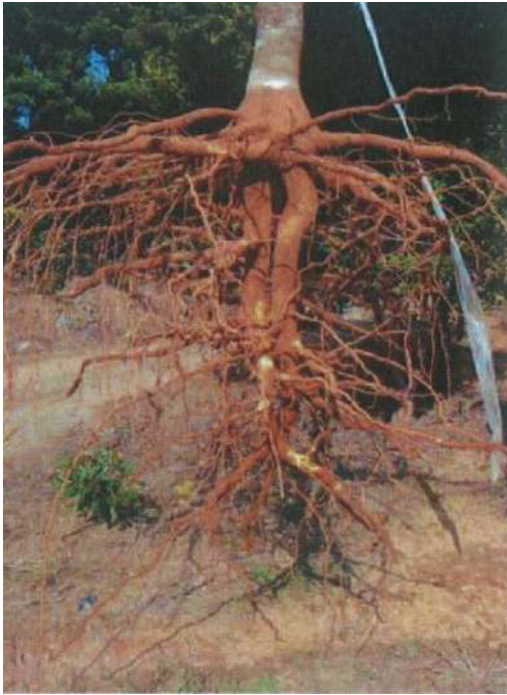
※チニブの設置に対して補助できる場合がありますので相談窓口までご相談ください。

※上のような方法で風通しが改善されない場合や、他にも採光を取り入れたい場合などは相談窓口までご相談ください。



## Q2. フクギが倒れそうで怖いです。

A2. フクギは直根<sup>ちよっこん</sup>、深根性<sup>しんこんせい</sup>の樹木で風に強くなかなか倒れません。ただし、病気で弱っている木や単木<sup>たんぼく</sup>で群<sup>ぐん</sup>をなしていない木は風の影響を直接受けるため倒れることがあります。フクギをよく観察し、葉が黄色くなるなどの変化がないか確かめましょう。



フクギの根

出典：沖縄における都市緑化樹木の台風被害対策の手引き H23年1月  
(国土交通省 国土技術政策総合研究所)

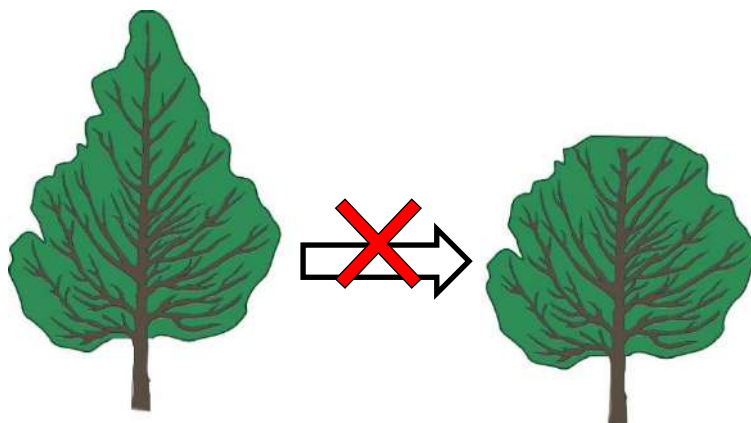


葉が黄変<sup>おうへん</sup>し樹勢が下がった

フクギの例

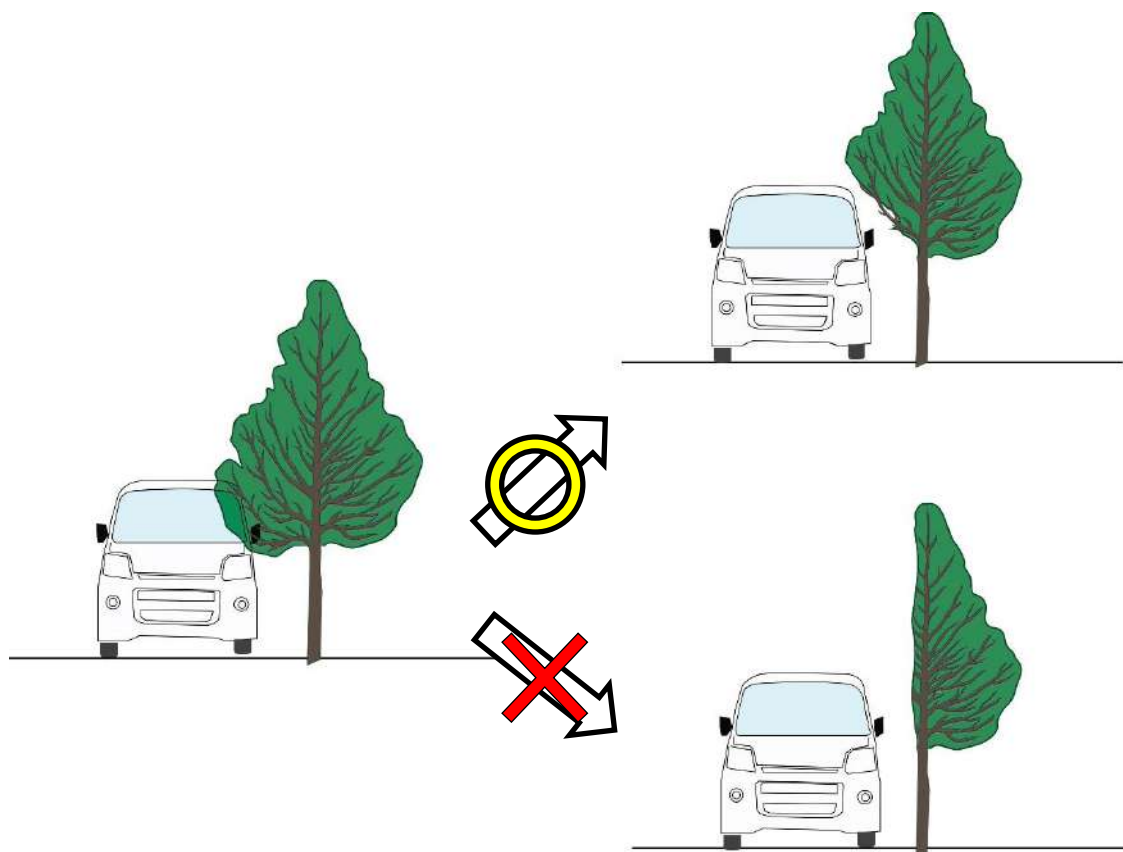
※もしフクギの様子がおかしければ相談窓口までご相談ください。樹勢回復<sup>じゅせいかいふく</sup>や、倒木の可能性<sup>とうぼく</sup>がある場合の対応などの作業を補助することができる場合があります。

※芯を切って高さを下げるのは樹勢<sup>じゅせい</sup>が下がる恐れがあります。



**Q3. フクギの枝が道にはみ出して緊急車両が通れない場所があります。**

A3. 道路に支障がある部分のみを剪定しましょう。大幅に切りすぎるとフクギによる抱護の持つ効果・機能を損なう恐れがあります。



※もし高所作業など剪定が困難である場合は相談窓口までご相談ください。

剪定作業を補助することができる場合があります。

**Q4. <sup>やしきりん</sup>屋敷林としてフクギを新たに植えたいと思います。**

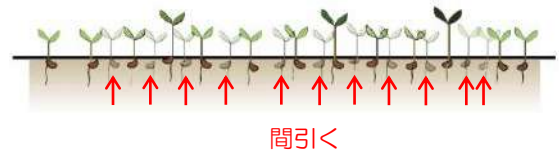
A4. <sup>やしきりん</sup>屋敷林を育てるには様々な方法があり、ここで一部紹介します。フクギは成長が遅いため、屋敷林として機能するのに20年かかると言われます。

①種から育てる

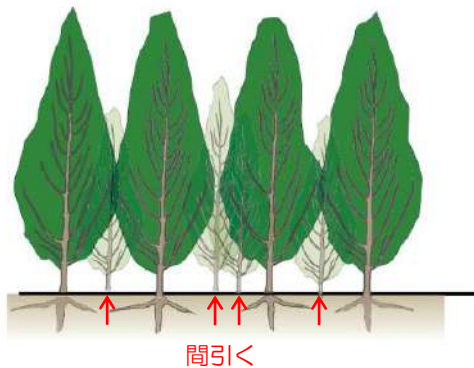
ステップ1 <sup>みつ</sup>種を密にまきます



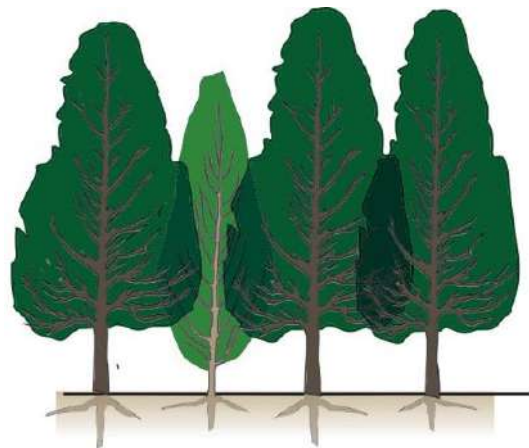
ステップ2 密になりすぎたところを<sup>ま</sup>び<sup>ひ</sup>間引きます



ステップ3 <sup>じゅせい</sup>樹勢の弱い木や密になり<sup>みつ</sup>成長を妨げている木を間引きます

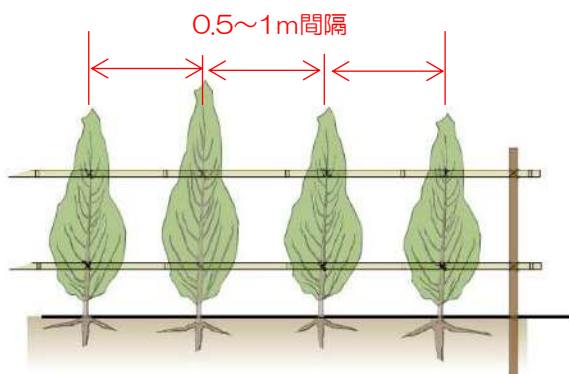


ステップ4 完成

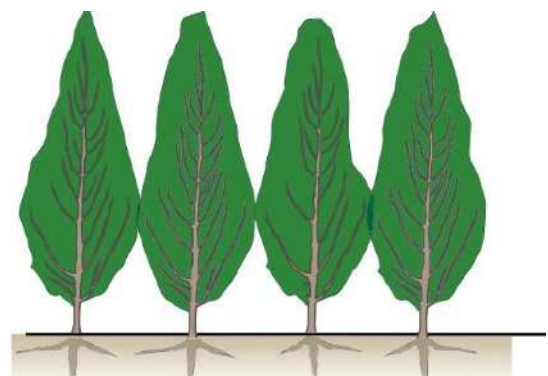


②苗を植栽する

ステップ1 苗が将来大きくなった時のことを考え、0.5m~1mほどの間隔で植えます。植え付け時は根付くまで支柱を設置します。



ステップ2 成長してきたら支柱を外します。



※間隔は目安です。各屋敷の条件に合わせて調整してください。

## 5. フクギの落ち葉や剪定枝葉の処理について

### ○落ち葉等の処理方法

落ち葉や枝葉は「もえるごみ」になります。指定ゴミ袋を使用して出すようにしましょう。

**もえるごみの出し方と主な品目**

もえるごみを出す際は、必ず黄色の指定ゴミ袋を使い、袋の口を結んで出しましょう。指定ゴミ袋は売店やコンビニ等の小売店にて販売しています。もえる部分ともえない部分(金属部分)を分離できないものはもえないごみとして出しましょう。

**生ごみ類**  
生ごみはよく水を切って出す

**草・木類**  
木や枝は太さ5cm以下で50cm以内に切って、枯らして、ひもで束ねて袋を出す

**紙オムツ**  
汚物はトイレに流す

**革、ゴム製品類、靴、ゴム手袋など**

**プラスチック類**  
CD、シャンプー等のボトル類、洗濯ばさみなど

**再生できない紙類**  
カーボン紙や写真などの資源化できない紙類

口は必ず結んでください。

**5袋以上は直接搬入**

**収集曜日一覧表(ごみはそれぞれ分別して出しましょう!!)**

地域名	月	火	水	木	金	土
今治・兼次・諸志 与那嶺・仲尾次			もえるごみ ペットボトル 古紙類、古器類	もえないごみ 有害・危険ごみ 鉄・アルミ類 ビン		もえるごみ 白色トレイ
	崎山・越地・平敷 謝名・玉城	もえないごみ 有害・危険ごみ 鉄・アルミ類 ビン	もえるごみ ペットボトル 古紙類、古器類		もえるごみ 白色トレイ	
	仲宗根・玉城1班 天庭13班・14班・15班 勢理宮・渡壽仁		もえるごみ ペットボトル 古紙類、古器類	もえないごみ 有害・危険ごみ 鉄・アルミ類 ビン		もえるごみ 白色トレイ
興我山・湧川・天庭 上運天・運天	もえないごみ 有害・危険ごみ 鉄・アルミ類 ビン	もえるごみ ペットボトル 古紙類、古器類			もえるごみ 白色トレイ	
	古宇利	もえるごみ 古紙類、古器類 ビン 白色トレイ		もえないごみ 有害・危険ごみ ペットボトル 鉄・アルミ類		

今帰仁村 家庭ごみの分け方・出し方ガイドブック（平成 30 年 2 月改訂）より

### ○落ち葉や剪定枝葉のリサイクルに向けた取り組み

フクギは、かつて建材や染料としても用いられてきました。また生きているときは防火の機能を持つフクギですが、枯れた枝葉は燃えやすく、燃料としても使われてきました。

このような先人の知恵にならい、フクギの新たな活用方法として、将来的にはフクギの落ち葉や剪定の枝葉をゴミとして処分せず、作物やフクギを育てる堆肥としてリサイクル出来ないか、村で検討しています。

## 6. 今泊では抱護の保全のための取り組みを行っています

今泊では集落を守っている抱護を後世に繋げていくため、以下の取り組みを行っています。誰でも参加できますので、参加したい方は7. の窓口までご連絡ください。

(抱護の保全に向けた取り組み)

### ①抱護の台帳の作成

今泊の抱護を台帳化し、計画的に保全していくための基礎資料をつくります。今泊区民と研究者の方々と協力して作成します。

### ②フクギ等抱護の管理

フクギ屋敷林や村抱護・浜抱護の管理を行います。

### ③フクギ等の植栽

集落の防災機能を高めるため、フクギ等を積極的に植栽します。

## 7. 抱護に関する相談窓口

フクギ屋敷林をはじめ、抱護の維持管理などで困っている方、転入してきてフクギの取り扱いがわからない方は、相談窓口を設けていますので下記まで気軽にご連絡ください。

(抱護に関する相談窓口)

今帰仁村教育委員会    社会教育課    文化財係

TEL:0980-56-3201

今泊公民館（地域活動拠点活性化施設）

TEL:0980-56-4315

